

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101554		
法人名	株式会社 ユニマツト リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	甲府ケアセンターそよ風		
所在地	山梨県甲府市富竹3-3-5		
自己評価作成日	令和 4年 1月 3日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4 年 1 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様一人ひとりの思いに寄り添いながら、相手の意思を受け入れるようにしている。形式に捉われることなく、それぞれ(個々)のペースで自分らしい生活を送れるように支援している。
ご家族様の意向・介護負担を考え、必要な方には、内科・皮膚科・精神科などの病院受診に対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は甲府市南西の住宅地に位置し、地域の生活道路であるバス通りに面しているのでアクセスが良い。また、並行して通る廃棄道と呼ばれる通りには商業施設も多く利便性も良い。
食事の提供は材料を取り寄せ、調理は事業所で行っている。入居者が希望するメニューは柔軟に聞き入れ変更しており、食事を楽しめるように力を入れている。
コロナ禍により面会の機会が少なくなった対策として、通常の「そよ風便り」以外にも入居者の様子がわかるお便りを個々に送付している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(なでしこ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GH独自の理念に基づき、意識の共有を図り、実施している。	GH独自の理念に基づき、意識の共有を図り、実施している。	「やさしさ思いやり」をグループホームとしての理念とし、フロアごとに掲示している。休憩場所にも掲示して、常に意識付けをしている。 数年に一度、理念の見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、組長会議・河川清掃・夏祭りに参加している。(現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため規模縮小、自粛している)事業所の行事などの際、地域より物品を借用し、ご近所付き合いをしている。近所を散歩しながら、住民の方に挨拶をするなどの交流に努めている。	自治会に入会しており、組長会議・河川清掃・夏祭りに参加している。(現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため規模縮小、自粛している)事業所の行事などの際、地域より物品を借用し、ご近所付き合いをしている。近所を散歩しながら、住民の方に挨拶をするなどの交流に努めている。	自治会に入会し、毎月一回地域の組長会議に参加していたが、現在は資料の配布のみとなっている。地区の河川清掃には職員が参加し、夏祭りには利用者が参加していたが、現在はコロナのために開催されていない。 事業所では納涼会・敬老会・忘年会・新年会を行なっていて、ボランティアの学生や子ども達と交流があったが現在は中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長様と関わりを持ち、組長会議の集まりに出席するようにしている。	自治会長様と関わりを持ち、組長会議の集まりに出席するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施(現在は書面開催)している。包括・地区民生委員・ご家族様に作成した書類を送付し、そこに対して意見・要望があれば返信していただいている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施(現在は書面開催)している。包括・地区民生委員・ご家族様に作成した書類を送付し、そこに対して意見・要望があれば返信していただいている。	事業所で書類を作成し、運営推進会議の参加者に返信用封筒を同封して送付して意見を伺っている。ご家族への電話連絡の際もできる限り意見を聞くようにしている。 コロナ禍により面会の機会が少なく、不安であるというご家族の意見もあり、通常の「そよ風便り」以外にも月一回お便りを送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難な問題や疑問が生じたときなど、地域包括センターや行政に相談し、解決するようにしている。	困難な問題や疑問が生じたときなど、地域包括センターや行政に相談し、解決するようにしている。	運営推進会議の議事録は文書で報告している。 市町村の担当との連携はできており、問題が発生した場合は相談している。 コロナ禍以前は市の相談員に来ていただいていた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 玄関の施錠は交通量の多い道路に面しているため、安全確保の面から、やむを得ず行っている。お客様からの希望に応じ、職員が付き添い外出をしている。	身体拘束は行っていない。 玄関の施錠は交通量の多い道路に面しているため、安全確保の面から、やむを得ず行っている。お客様からの希望に応じ、職員が付き添い外出をしている。	利用者は二階に居り、エレベーターで一階へ降りることはできるが、外への出入口は安全のため施錠している。 スピーチロックについては毎月の会議の中で振り返りを行っている。身体拘束委員会は二か月に一回、グループホームとして実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、より良い介護に繋がれるように努めている。センター内でも身体拘束についての研修を行い、全職員から研修報告書を記入してもらっている。	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、より良い介護に繋がれるように努めている。センター内でも身体拘束についての研修を行い、全職員から研修報告書を記入してもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、研修報告・学習会を適宜行い、より良い介護に繋がれるようにしている。	研修会に参加し、研修報告・学習会を適宜行い、より良い介護に繋がれるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご利用者様・ご家族様に十分な説明を行い理解・納得を得ている。入居後も不明・不安な点があれば、その都度対応している。	契約の際、ご利用者様・ご家族様に十分な説明を行い理解・納得を得ている。入居後も不明・不安な点があれば、その都度対応している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(なでしこ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、意見交換しやすい雰囲気づくりを心掛けています。運営推進会議や家族会での意見は、職員全体で共有し、運営に反映している。	日頃から、意見交換しやすい雰囲気づくりを心掛けています。運営推進会議や家族会での意見は、職員全体で共有し、運営に反映している。	年一回五月に家族会を実施し、事業所で用意した食事を皆でとる機会があったが、今はできていない。預り金は1人平均2〜3万であるが、遠方のご家族などは残金がか心配なため、毎月のたよりで伝えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回各フロアごとの会議の際には、意見交換の場を作るようにしている。出た意見は、職員全体で共有するようにし、運営に反映させている。	毎月2回各フロアごとの会議の際には、意見交換の場を作るようにしている。出た意見は、職員全体で共有するようにし、運営に反映させている。	職員の意見は日常の会話の中で聞き取り、必要に応じて対応している。契約更新のタイミングで面談を行い、職員の意見を確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、労働条件を把握し、働きやすい環境づくりに努めている。また、状況に応じて必要であれば、面談をしたりと、改善できるところは改善に繋がるように努めている。	代表者は、労働条件を把握し、働きやすい環境づくりに努めている。また、状況に応じて必要であれば、面談をしたりと、改善できるところは改善に繋がるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回のフロア会議の中で、適宜学習会を行っている。法人内外の研修や、資格取得を積極的に推進し、参加しやすい環境づくりに努めている。	毎月1回のフロア会議の中で、適宜学習会を行っている。法人内外の研修や、資格取得を積極的に推進し、参加しやすい環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍ということもあり、なかなか同業者との交流は出来ていない。社内のGH会議(現在ZOOM会議)の中では、意見交換等を行っている。	コロナ禍ということもあり、なかなか同業者との交流は出来ていない。社内のGH会議(現在ZOOM会議)の中では、意見交換等を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様との信頼関係を築けるよう、気持ちに寄り添い耳を傾けるように努めている。	ご本人様との信頼関係を築けるよう、気持ちに寄り添い耳を傾けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階では、ご家族様と十分な話し合いを行い、不安・不明なことがないように努めている。要望等があった場合には、その都度対応するようにしている。信頼関係を築けるようにしている。	サービスを導入する段階では、ご家族様と十分な話し合いを行い、不安・不明なことがないように努めている。要望等があった場合には、その都度対応するようにしている。信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、デイサービスとの連携を図り、サービスの導入をしている。	必要としている支援を見極め、デイサービスとの連携を図り、サービスの導入をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の出来る能力を見極め、一緒に家事を行ったり、家族的な雰囲気の中で温もりのある関係が築けるように努めている。	個人の出来る能力を見極め、一緒に家事を行ったり、家族的な雰囲気の中で温もりのある関係が築けるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(なでしこ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、生活の様子・健康状態など手紙等で報告している。 ご家族も安心して生活出来るとのお言葉をいただいた。	毎月、生活の様子・健康状態など手紙等で報告している。 ご家族も安心して生活出来るとのお言葉をいただいた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの友人やご近所の方々にも、気軽に来ていただけるように、面会はいつでも自由に来れるような環境と明るい雰囲気づくりを心掛けている。 馴染みの場所への支援はご家族にも協力をいただいている。	これまでの友人やご近所の方々にも、気軽に来ていただけるように、面会はいつでも自由に来れるような環境と明るい雰囲気づくりを心掛けている。 馴染みの場所への支援はご家族にも協力をいただいている。	コロナ以前は、友人・近所の方などが来訪する機会が多かった。昨年末の感染状況が落ち着いた時期は条件付きで面会を可能にし、ホールでボード越しに感染対策をして行った。 以前は家族との外出や自宅に帰ったり、行きつけの美容院に行く人もいたが今は自粛している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者に支えあえるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持てるよう、状況に応じ、職員が介入し、楽しく過ごしていただけるように支援している。	利用者同士が関わりを持てるよう、状況に応じ、職員が介入し、楽しく過ごしていただけるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後(退去後)も、必要に応じて、相談・支援に努めている。	サービス終了後(退去後)も、必要に応じて、相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を尊重し、ご家族から情報収集を行い、可能な限り希望に添えるケアを心掛けている。	ご本人の希望を尊重し、ご家族から情報収集を行い、可能な限り希望に添えるケアを心掛けている。	ご本人の希望については、日頃から会話する中で聞いているが、自分の意思を伝えるのが困難な方については、ご家族やこれまで関わりのあった方の意見を参考にして思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり情報収集を行い、今までの生活環境の把握に努めている。出来る限りこれまでと同じ生活が送れるように、努めている。	一人ひとり情報収集を行い、今までの生活環境の把握に努めている。出来る限りこれまでと同じ生活が送れるように、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりがそれぞれのペースで、自由にのんびりと過ごしていただけるようにしている。	一人ひとりがそれぞれのペースで、自由にのんびりと過ごしていただけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月フロア会議を実施し、担当者会議を行い、意見を出し合い介護計画に反映している。	毎月フロア会議を実施し、担当者会議を行い、意見を出し合い介護計画に反映している。	介護計画は入居して3か月後に見直しをしている。3か月経たないうちに見直しが必要な場合は随時行う。その後、問題がなければ6か月に一回見直しを行う。毎月フロア会議を行い、その中でモニタリング・担当者会議を行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録・気づきノート・引き継ぎノートを活用し、情報共有・実施に活かしている。	個人の記録・気づきノート・引き継ぎノートを活用し、情報共有・実施に活かしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(なでしこ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、既存のサービスに捉われない、柔軟な対応が出来るように努めている。	都度、既存のサービスに捉われない、柔軟な対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ、近隣の商店・銀行・郵便局などを利用し、馴染みの関係の構築に努めている。	出来るだけ、近隣の商店・銀行・郵便局などを利用し、馴染みの関係の構築に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の意向を一番に努めている。 在宅と同じ主治医にご家族対応で受診を行っているが、家族対応が困難なため方のため、内科・皮膚科の往診があり、救急時には職員が付き添い、病院受診を行っている。	ご本人・ご家族の意向を一番に努めている。 在宅と同じ主治医にご家族対応で受診を行っているが、家族対応が困難なため方のため、内科・皮膚科の往診があり、救急時には職員が付き添い、病院受診を行っている。	利用者の三分の一がかかりつけ医。残りの方が協力医の往診を受けている。協力医は2名内科と皮膚科でそれぞれ一か月に一回の往診がある。 歯科は必要に応じて受診しているが、病院の送迎付きである。看護師の資格を持つ職員が各フロアに1名居る為病院との連携が十分とれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を取っており、それぞれのフロアに看護師が勤務している。 必要に応じて、訪問看護に相談し、適切な処置を受けている。	医療連携加算を取っており、それぞれのフロアに看護師が勤務している。 必要に応じて、訪問看護に相談し、適切な処置を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、必ずサマリーを用意している。 より適切な医療を受けられるよう、病院関係者との情報交換を行い、必要に応じて医師を交えたカンファレンスを行っている。	入院の際には、必ずサマリーを用意している。 より適切な医療を受けられるよう、病院関係者との情報交換を行い、必要に応じて医師を交えたカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意見を尊重し、週末のあり方・方向性の説明、身体状況に応じ随時、話し合いを行っている。 在宅医療・訪問看護の協力体制を整えるよう努めている。	ご本人・ご家族の意見を尊重し、週末のあり方・方向性の説明、身体状況に応じ随時、話し合いを行っている。 在宅医療・訪問看護の協力体制を整えるよう努めている。	入居の際、重度化や終末期についての説明をしている。食事が摂れない等重度化した場合はご家族・医師と相談して方針を決めている。 コロナ禍ではあるが、終末期においてはフェイスシールド等、感染対策を万全にご家族との面会を可能にした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師ご利用者様の方が一の事故等に備えての学習会を定期的に行っている。	看護師ご利用者様の方が一の事故等に備えての学習会を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・水害を想定し、年2回の避難訓練を実施している。昼夜それぞれを設定している。非常時には、地域との協力体制を気付いている。	火災・地震・水害を想定し、年2回の避難訓練を実施している。昼夜それぞれを設定している。非常時には、地域との協力体制を気付いている。	年2回の避難訓練は1階のデイサービスと合同で行なっている。そのうち1回は夜間想定で行っている。 夜間火災時は職員が少ないため、近所に住んでいる職員をすぐに呼ぶ体制を取り、初期対応もマニュアル化されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や、ペースを尊重し、その人それぞれに合った対応を心掛けている。また、人格や尊厳を傷つけないような対応を心掛けている。	一人ひとりの人格や、ペースを尊重し、その人それぞれに合った対応を心掛けている。また、人格や尊厳を傷つけないような対応を心掛けている。	個々の意志・ペースを尊重し、活動は無理強いしないよう気をつけている。 居室に入る際は必ずノックをし、トイレ誘導する際の声かけには十分配慮して対応している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(なでしこ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを聴き、可能な限り決定出来るよう働きかけ支援している。意思表示が困難な方は、キーパーソンに意思を伺うなどして、希望に沿った自己決定が出来るようにしている。	ご本人の思いを聴き、可能な限り決定出来るよう働きかけ支援している。意思表示が困難な方は、キーパーソンに意思を伺うなどして、希望に沿った自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合の時間スケジュールにするのではなく、その方のペースや時間の使い方を大切にしている。一人ひとりの希望に沿えるように支援している。	職員都合の時間スケジュールにするのではなく、その方のペースや時間の使い方を大切にしている。一人ひとりの希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしく自由に、身だしなみ・おしゃれが出来るよう、見守り・支援している。	その人らしく自由に、身だしなみ・おしゃれが出来るよう、見守り・支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめるよう、見た目も重視した盛り付けにするなどして工夫している。また人気のある献立や、季節物を取り入れたり、出前を頼んだりして食事を楽しくもらえるよう工夫している。	食事を楽しめるよう、見た目も重視した盛り付けにするなどして工夫している。また人気のある献立や、季節物を取り入れたり、出前を頼んだりして食事を楽しくもらえるよう工夫している。	献立を元に一週間分の食材を業者に発注している。調理は事業所で行う。入居者が希望するメニューは柔軟に聞き入れ変更している。季節の行事食も取り入れている。コロナ禍以降は外食ができないため、フロアごとに日を決めて出前を取り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が考えた高齢者の栄養バランスを考慮した内容となっている。食事・水分摂取量が分かるように記録している。嚥下状態の見極めを行い、トミをつけている。	献立は管理栄養士が考えた高齢者の栄養バランスを考慮した内容となっている。食事・水分摂取量が分かるように記録している。嚥下状態の見極めを行い、トミをつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔ケアの状態を確認している。状態に応じ、協力医である送迎付きの歯科を受診している。	毎食後口腔ケアを行い、口腔ケアの状態を確認している。状態に応じ、協力医である送迎付きの歯科を受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排尿リズムを掴みトイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄出来るようにしている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排尿リズムを掴みトイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄出来るようにしている。	日中は排泄チェック表を元にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄に繋げている。夜間は利用者の3分の1ほどが、オムツやポータブルトイレを使用しているが、できる限りトイレでの排泄ができるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤や整腸剤ばかりに頼るだけではなく、繊維質の多い食品を摂ったり、水分量を増やしたりするよう心掛けている。	下剤や整腸剤ばかりに頼るだけではなく、繊維質の多い食品を摂ったり、水分量を増やしたりするよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	転倒などの危険防止のため、職員の見守りの出来る時間帯に行っている。	転倒などの危険防止のため、職員の見守りの出来る時間帯に行っている。	入浴は個浴かシャワー浴になっている。時間帯は午後で週2回～3回の入浴となっている。入浴剤を使用することもある。シャンプー・ボディソープ等は備え付けの物を使用している。入浴を嫌がる利用者はいない。	併設のデイサービスに機械浴があるので、対応が可能であればグループホームの入居者も利用できる体制が作れるか検討するよう期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個人のペースに合わせている。夜間、不眠にならないように、日中の活動量を出るだけ増やすようにしている。	就寝時間は個人のペースに合わせている。夜間、不眠にならないように、日中の活動量を出るだけ増やすようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

甲府ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(なでしこ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、職員全員が薬の内容を理解するようにしている。必要時、医師に情報提供をしている。	看護師が中心となり、職員全員が薬の内容を理解するようにしている。必要時、医師に情報提供をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なことは積極的に、行っていただくようにしている。その方の出来ることがある限りは、思いに寄り添いながら支援するようにしている。	ご本人の得意なことは積極的に、行っていただくようにしている。その方の出来ることがある限りは、思いに寄り添いながら支援するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気・気候を見ながら、近所に散歩に出かけている。四季を感じてもらえるよう、なるべく季節ごとに外出を企画し、全員で外出する機会を作るようにしている。	天気・気候を見ながら、近所に散歩に出かけている。四季を感じてもらえるよう、なるべく季節ごとに外出を企画し、全員で外出する機会を作るようにしている。	天気の良い日は近所の神社まで散歩に出かけている。コロナ禍以前は月1回の外食があり、そのうちの年に4回は、春はお花見、夏はひまわり、秋は紅葉などと景色を見に出かけていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に事務所の金庫で一括管理している。	金銭管理は基本的に事務所の金庫で一括管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙など、希望があればいつでも出来るように支援している。	電話・手紙など、希望があればいつでも出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、季節感のある装飾を工夫している。室温・湿度には十分に気を付け、心地よく過ごせるように配慮している。通路は広々とした雰囲気になるように心掛けている。	共有スペースには、季節感のある装飾を工夫している。室温・湿度には十分に気を付け、心地よく過ごせるように配慮している。通路は広々とした雰囲気になるように心掛けている。	共有スペースに飾ってある装飾は職員と利用者で協力して作成することもある。廊下には物をたくさん置かず、明るく清潔に保たれている。季節の花を室内やベランダなどに飾って季節感を採り入れることができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは独りにはなれないが、それぞれが思い思いに自由に過ごせるようにしている。	共有スペースでは独りにはなれないが、それぞれが思い思いに自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ちこんでいただき、家にいるときと同じようにリラックスしていただけるようにしている。	使い慣れた家具を持ちこんでいただき、家にいるときと同じようにリラックスしていただけるようにしている。	カーテン・タンス・クローゼット・ベッドは設置してある。洗面台やトイレは共用である。それぞれにテレビ・イス・仏壇・靴入れなどを持ち込み、ご本人にとって居心地の良い空間をつくっている。読書・ぬり絵などが好きな利用者は居室に持ち込み楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	GH玄関は安全を考慮して施錠されているが、共有スペース・居室は、バリアフリーになっており、安全に自由に行き来出来、思い思い過ごしている。	GH玄関は安全を考慮して施錠されているが、共有スペース・居室は、バリアフリーになっており、安全に自由に行き来出来、思い思い過ごしている。		